

「伊勢信仰と大国主(出雲)信仰の神」 講座計画表



第 1回(XX/XX/'XX) 伊勢神宮の神と特性

第 2回(XX/XX/'XX) 伊勢神宮の由来と広がり

第 3回(XX/XX/'XX) 大社造りと社殿の神々

第 4回(XX/XX/'XX) 出雲の神々と大社創建

第 5回(XX/XX/'XX) 出雲大社の祭祀

第 1回 伊勢神宮の構成と特徴

- ・伊勢神宮の全体概要
- ・祭祀構造
- ・建築様式と社殿配置

中心出典:「なぜ八幡神社が日本で一番多いのか」 島田裕巳著(幻冬舎)、
「神社に秘められた日本史の謎」(洋泉社MOOK)、
「日本の神社 伊勢神宮(内宮)」(ディアゴスティーニ)、
「日本の神社 伊勢神宮(下宮)」(ディアゴスティーニ)、
「神宮125社巡拝案内」(伊勢神宮崇敬会)
「古事記」(竹田恒泰著、学研)、「日本書紀」(宇治谷 孟著、講談社)他

1. 伊勢神宮の全体概要

- ・伊勢神宮は神の名前ではなく天皇の祖先、天照大御神を祀る場所を表す。「お伊勢様」で知られる。
- ・皇室の祖先、「皇祖神」とされ、記紀において正当性を持って登場する神道の中核神である。

参照資料1-1

①祭神構成は、天照大御神を祀る「内宮(ないぐう)」、豊受大御神を祀る「外宮(げぐう)」からなる。

正式名称はそれぞれ「皇大神宮(こうたいじんぐう)」、「豊受大神宮」という。

参照資料1-2, 3

②伊勢神宮とは、祭神を祀る正宮(しょうぐう)の他に別宮、摂社、末社、所管社がある。別宮が14社、摂社が43社、末社が24社、その衣食住を司る所管社は正宮所管が34社、別宮が8社。

正宮を含めて、125社を伊勢神宮という。

*「別宮」とは、御正宮の『わけみや』という意味で、御正宮について尊いお宮のこと。皇大神宮(内宮)に10ヶ所、豊受大神宮(外宮)に4ヶ所の別宮があります。

*「摂社」は延喜式神名帳(えんぎしきじんみょうちょう)に、末社は延暦儀式帳(えんりやくぎしきちょう)の縁起に出てくる神社です。

*「所管社」は正宮や別宮に直接関わり合いがあり、水や酒、米、塩、絹、麻など衣食住を司る神々が多く祭られています。

③伊勢以外で天照大御神を祀る神社は、神明社、神明宮、皇大神宮などと呼ばれる。

代表的な神明社は、芝大神宮、石川の金沢神明宮、長野の仁科神明宮、京都の日向(ひむかい)神明宮(日向大神宮)など。

参照資料1-5, 6

2. 祭祀構造

①内宮:天照大御神。神仏習合時には、天照大御神の本地仏は大日如来(金剛界大日如来)とされた。

ご神体は八咫鏡(やたのかがみ)。

相殿は、

参照資料1-4

*天手力男神(アマノタチカラオノカミ)、ご神体は「弓」。

天の岩戸を引き開けた手のあまりある力の神。守護神として座す。

*栲幡千千姫命(タクハチヂヒメノミコト)、ご神体は「剣」。

「栲」は、衣を作る際の繊維となり、「幡」は繊維を織る機械のことを意味しており、すなわち、「織物の神様」

2. 祭祀構造(つづき)

読本参照、参考資料1-4

- ②外宮:豊受大御神。本地仏は胎蔵界大日如来。ご神体「鏡」。
相殿は、天児屋根命(アメノコヤネノミコト)、ご神体は「笏(しゃく)」。太玉命(フトダマノミコト)、ご神体は「宝玉(勾玉)」。邇邇芸命(ニニギノミコト)、ご神体は「鏡」。
- ③心御柱(しんのみはしら):内宮・外宮の御正殿で天照大御神のご神体の床の真下に埋められている。
由来は、「天皇を象徴するもの、天皇を守護し、天皇に国を守護してもらう」という。
又、神籬説もあるが、「御正殿の位置を明確にするもの」が有力視される。
- ④齋宮:内親王や女王といった皇室に連なる女性を選ばれ、潔斎を行いながら神事の奉仕をする。
天武天皇時、齋宮制度が正式に設けられるが、それまでも齋王は天照大神の御杖代(みつえしろ:天皇の杖の代わりになる人)として奉斎した。
(注)嫡出(ちやくしゅつ)の皇女および嫡男系嫡出の皇孫である女子
天武天皇の齋宮制度は息女の大来皇女(おおくめのひめみこ)から始まる。

3. 建築様式と社殿配置

参照資料1-7

①神明づくり

- *伊勢神宮の正殿は神明づくり^注という伊勢神宮独特の建築様式を持つ。
屋根の千木(ちぎ)と鯉木(かつおぎ)、平入り、萱葺(かやぶき)、そして棟持柱を特徴とする。
(注)出雲の大社造りとは構造、土台、心柱、入り口共に全く異なる。
- *「伊勢両宮曼荼羅」によれば、現在の神明づくりは1600年以降に出来上がった。
室町時代の伊勢参詣曼荼羅には棟持柱が見えない。妻入りでもある。
江戸時代の伊勢参宮名所図解には棟持柱が見える。

参照資料1-8、9

3. 建築様式と社殿配置(つづき)

参照資料1-10

②社殿配置

- * 内宮、外宮での大きな差は、正殿と宝殿の配置が逆になることと、千木が内宮が内削(うちそぎ)、外宮が外削で対称形の形式を持つ。
⇒同等の力を持つ神であったと想像できる。
- * 両宮とも板垣、外玉垣(そとたまがき)、内玉垣、瑞垣(みずがき)、御正殿の構造。
出雲大社では、荒垣、瑞垣、玉垣、御正殿となる。
玉垣の玉は魂(たましい)の玉、瑞垣の端はみずみずしい神を表すといわれる。